

秋の対話

岸田國士

青空文庫

桔梗

芒

女郎花

こうろぎ

風

蛇

少女

老婆

高原——別荘の前庭——秋

遠景は、澄み渡つた空に、濃淡色とりどりの山の姿。
舞台中央に白樺の幹が二本並んでゐる。その根もとに
雑草の茂み。

第一場

朝——小鳥の啼き声が聞える。桔梗と女郎花と芒とが、それぞれ異なつたポーズをもつて白樺の根もとに寄り添つてゐる。桔梗は十八九、女郎花は十六七、芒は二十一二の少女——何れも、その花の感じに応はしい服装。

桔梗　でも、どうしてお嬢さんだけ残つてらつしやるんでせう。

婆やさんと二人つきりぢや、随分淋しいわね。

芒　婆やさんが、三人分ぐらゐしやべるからかまはないんでせう。

女郎花　あら、だつて、昨夜から今朝にかけて、婆やさんの声は聞えないぢやないの。

芒　それや、お嬢さんは、まだ起きていらつしやらないし、話す相手がないからなんだわ。

桔梗　お嬢さんは、今日に限つてどうしたんでせう。こんなに遅くまで……。きつと、泣いてるのよ。

女郎花　どうして……。泣くわけはないぢやないの。もつと此処にゐたいつていひ出したのは御自分なんですもの……。旦那さんや奥さんが、どんなにおつしやつても、東京に帰るのはい

やだつていひ張つたのよ。そのわけは、わかつてるでせう。

芒
」

十（同時に） どういふわけなの……。

桔梗
」

女郎花　あら、あなたたち、知らないの、それはね、かうなの
——あたし、それ、こうろぎさんに聞いたのよ……。

芒　何時……。

女郎花　一昨日の晩。あなたたちが眠つてしまつてから……。
かうなんですつて——（かういひながら、芒と桔梗の耳元に口
を寄せ小声で何かいふ）

芒　まあ……。

桔梗　ほんと、それは……。

女郎花　さうなんですつて……。

芒　だつて、もう、他の別荘はみんな閉まつちまつたわよ。こ
こ一軒だけよ。夜、灯がついてるのは……。

女郎花　うそですよ、あの白煉瓦の家は、まだ引き揚げません
よ。

桔梗　あそこに、若い男の人つて誰がゐて……。あの変な、髯
をぼうぼう生やした詩人だけぢやないの。

女郎花　ね、それが怪しいのよ。

芒　まさか……。お嬢さんが、あの詩人と……。あら、をかし
い。
(笑ひこける)

女郎花　ぢや、今夜、起きて聞いて御覧なさい。あの北の窓口よ……。きつと、あそこで、二人の話声がきこえるから……。

桔梗　それが、あの詩人だつていふことがどうして判る？

女郎花　それや、あんた、話のしぶりでわかるわ。——お嬢さんがかういふんですつて——あなたはどうしてさう、黙つて考へてばかりゐるのつて……。それからあなたは手をどこへしまつてるのつて……。そら、あの詩人を御覧なさいよ。何時でも歩く時懐手をしてゐるぢやないの。

芒　さうね。

桔梗　ぢや、やつぱり、さうか知ら……ずるぶんお嬢さんも物好きね。

女郎花　あたし、なんだか、くしやくしやするわ。あの詩人の
奴がいけないのよ。この庭に降りて来る人で、あたしたちに話
をしかけてくれるのは、あのお嬢さんだけぢやないの。あんな
優しいお嬢さんを、一体どうしようつていふの……。　（泣声に
なる）

芒　泣かなくつたつていいわ、あたしたちの知つたことぢやあ
るまいし……。それより、早くおつくりをしませうよ。露が消
えちまうわよ。

（めいめい、懐中鏡を取り出して化粧をしはじめる）

桔梗　もう、あたしの着物もはげて来たわ。

女郎花　あたしを御覧なさい、こんなに顔が荒れちまつて……。

(こうろぎがびよんぴよん跳ねながら現れる)

こうろぎ　よう、みなさん、おめかしだね。

女郎花　あら、こうろぎさん、早いよね……。昨夜はどうだつ

た？

こうろぎ　昨夜は、蟬螂の奴に出くわして、命からがら縁の下

へ逃げ込んだよ。

女郎花　さうぢやないのよ、あの話よ、北の窓口の一件よ。

こうろぎ　ああ、あれね。あれはあれきりよ。だが、やつぱり

話声は聞えたさ。かういつてたぜ——そこから中へはひつちや

いやよ。そこにさうしてるのよ。あんたはどこへでも登れるのねえつて……。奴さん窓からはひらうとしたんだね。

女郎花　まあ、凶々しい。

桔梗　ちよいと、お嬢さんが起きて来たわ。

芒　窓を開けたわ。

こうろぎ　あの髪の毛はどうだ。やあ、欠伸をしたぞ。

女郎花　まだ睡むさうだわ。

芒　あの眼のこすり方……。可愛いわね。

桔梗　顔色が悪かない、今朝は……。

女郎花　ここへ来た時よりずっと痩せたわ。

芒　何してるの、両手を差出して……。

女郎花 （けたたましく）あ、どうしたの。

桔梗 倒れたんぢやない。

女郎花 （おろおろ声にて）さうよ、さうよ、きつとさうよ。

第二場

舞台は前に同じ。

真夜中——星が輝いてゐる。

桔梗と芒と女郎花は、それぞれ草の根を枕に、すやす

や眠つてゐる。

慌ただしく風が飛んで来る。芒が先づ驚いて眼を覚す。

芒 いやね、折角寝ついたところを……。

風 さう、まあ、怒るなよ。

芒 もつと静かに通つたら……。

風 せいぜい静かにしてるんだよ。

芒 どつちから来たの。

風 北から……。

芒 おお寒む。(襟をかき合はす)

風　　今、すぐ行くよ。（といつて行きかけるが桔梗の足にけつ

まづく）

桔梗　　いたいツ。だあれ、そこにゐるのは……。

風　　やかましいなあ。

女郎花　　（これも眼をさまし）また風、今夜は、とても眠れや

しないわ。

風　　そんなこといはずに眠つてくれよ。（大急ぎで走り去る）

芒　　（耳を澄まし）しいツ……聞えない、あの話声……。

（みんな耳をすます）

少女の声　（微に）どうして、そんなに毎晩来るの……。何か、あたしに用があるの……。さ、帰つて頂戴……。いやね、そんなに黙つてちや……。あたしは、それや、あんたが好きだつていつたけれど、あたしの部屋なんかへ来ちや困るわ。帰らなれや、婆やを呼んでよ。さうら、婆やを呼んぢやいやでせう。さ、お帰んなさい。早くさ……。

（長い沈黙）

芒　　やつぱり、ほんとね。

桔梗　　だけど、追ひ返されてるぢやないの。

女郎花　　いい気味だ。

(間)

芒　　(また耳をそばだて) なに、あの音は……。

桔梗　　(眼を据ゑ) なに、あの草の中で光るものは……。

女郎花　　(悸えて) 蛇よ！

(みんな、身をすくめて、眠つたふりをする。そこへ、
ふらふらと、蛇が現れる)

蛇 (溜息を吐く) おれはやつぱり駄目かなあ。あの肩の上を

一度逼へばいいんだ。それが、どうしても、おれには出来ない。
もう一度、あすの晩、行つて見よう。もつと、静かに窓をあけ
なくちや……。

(姿を消す)

女郎花 (半身を起し、蛇の去つた方を振り返りながら) なん

て気味の悪い奴だらう。独言なんかいつて……。

桔梗 もう行つちまつた……？

女郎花 何か変なこといつてたわね。

桔梗 さうね。

女郎花 こうろぎさん、出鱈目ばつかし……。

芒 どうだつていいぢやないの、そんなこと……。あたし、眠るわよ。

女郎花 さうすると、お嬢さんは、あしたの晩……。

芒 ねえ、ちよいと、もう黙つて頂戴よ。あしたになつたらわかるぢやないの。

(長い沈黙)

少女の声 まあ、あんたは、どうしてさう暴れるの。駄目よ。

そんなに騒いだつて……。何処へ行かうつていふの……。あら
羽根が折れるわよ……。お待ちなさい。そんなに火のそばへ行
きたいの……。どら、そこは硝子だから、はひれないのよ。馬
鹿ね、あんたは……。

(長い沈黙)

さうれ御覧なさい。痛かつたでせう。さ、もうあかりを消して
よ、あたし、寝るんだから……。

(長い沈黙)

女郎花　お嬢さんが寝るなら、あたしも寝よう（横になる）

桔梗　御覧なさい、芒さんは、もうぐうぐうよ。

桔梗　どうでせう……あんた、足が冷たくはない……？　あた

しの足、こら……一寸、さわつて御覧なさい。まるで石みたい
……。

女郎花　あんたの足は、いつでも冷たいのよ。今夜だけぢやないわ。

桔梗　さうか知ら……。　（頭を払ひながら）いつの間にか、蜘蛛がまた巣をかけたわ、あたしの頭の上へ……。

女郎花　（これも頭に手をやつて）あら、あたしの頭へも……。

第三場

舞台は前に同じ。

翌朝——

芒　あの婆やさん、さつきから、うろうろ歩きまわつて、一体、何を探してゐるの。

桔梗　昔の恋人の名でも落したんぢやない。

芒　え？

桔梗　　いいえ、なんでもないの。

芒　　またきたわ。

（老婆現る。不安な様子）

女郎花　　婆やさん、なにを探してらつしやるんですの。

老婆　　（その声が聞えぬらしく、あたりをきよろきよろ見廻し

ながら）お嬢さま……お嬢さま……。

桔梗　　お嬢さんが見えないんですか。

老婆　　（それに頓着なく、一層声を張り上げて）お嬢さま、何

処にいらつしやるんです、か……。　（一段声を落して）ほんと

に、この婆やを心配させないでくださいませ……。ちよつと眼をはなしてるひまに、どこへいらしつたんだらう……。

女郎花　婆やさん、婆やさん……。

老婆　（答へない）

女郎花　お嬢さんは、なぜお一人きり、こゝに残つていらつしやるんですか。何かわけがあるんですか。

老婆　（暫く考へた後）あのお召物でよそへいらつしやるわけはなし……。いやいや、あの調子ぢや、どうかわからない……。

さあ、困つた……。　（といつて、歩きかけた時、ピアノの音が聞える。びつくりして立ち止る。が、やがて）おや、やつぱり、いらしつたんだ……。　（急ぎ退場）

女郎花　あの婆やさんは聾か知ら……。

（この時、少女が楽譜を手に持ったまま現れる）

少女　まあ、綺麗に花が咲いて……あなたは女郎花さんね。今日は……。そつちが桔梗さんね。大きな桔梗さんね。それから芒さんもゐるのね。何時からそんなところに咲いてたの。あたし、ちつとも知らなかつたわ。みんなが、あたしのことを病氣だつて、外へ出さないんですもの……。

（老婆が、後ろから恐る恐るついて来る）

少女　さ、みんなで、一緒に遊びませうね。何をして遊びませう、歌を唄ひませうか。え、歌、知らないの。まあ、かういふ歌も……。　（小声で歌を唱ふ）そいぢや、お話をしませう。桔梗さんあなた、お話、上手らしいわ。さ、して頂戴……。　（彼女は、耳を澄まして、桔梗の話を聞いてゐるかのやうである。眼を見張つたり、笑ひたさうに手で口を塞いだり、しんみりうなだれたり、快活に手を叩く真似をしたりする）

老婆　（静かに少女に近づき哀願するやうに）お嬢さまどう遊ばしました。お嬢さま、なにをそんなに……。　（泣かんばかりに）お嬢さま、婆やの声がお耳にはひりませんか。

少女　（全く夢中で）さ、今度は女郎花さんの番よ……。今度

は、もつと悲しいお話をして頂戴。悲しい、悲しいお話よ……。

（静かに、眼をつぶるやうにして、耳を傾ける）ああ、それがいいわ……。しきりにうなづく。やがて眼に涙が溜る。一滴、

二滴、涙が頬を伝ふ。肩がだんだん大きく波をうつ、しまひに、両手で顔を覆ふ）

老婆　（驚いて少女の肩に手をかけ）お嬢さま、お嬢さま、それがあなたの病気なんで御座いますよ……。さ、婆やお話をして下さいまし……。婆やが面白いお話を致しませう……。

少女　今度は、芒さん、もつと、もつと悲しいお話をして頂戴……。ええ、どんなに悲しくつてもいいわ。

老婆 いけません、お嬢さま……。あなたは、御自分で病気を
お癒しにならないければいけません……。一度だけ、婆やお話
をして下さいませ。さ、婆やが、悲しい悲しいお話しを致しま
せう。

少女 芒さん、なにをそんなに考へてるの。さ、もう、あたし
聞いてるわよ。

老婆 昔々、ある処に、珠子さまといふお美しいお嬢さまが御
座いました。お父さまも、お母さまも、それはそれは、珠子さ
まをお可愛がりになりました。珠子さまは、お美しいばかりで
なく、それは伶俐な、優しいお嬢さまで、先々は、どんなに立
派な旦那さまをお持ちになるかと、世間でも、みんな、お噂を

致してをりました。その珠子さまが、どうしたわけか、この夏から……。

少女　（急に大声で笑ふ）いやね、ちつとも悲しくなんかないわ、そんなお話……。

老婆　いいえ、こんな悲しいお話は御座いません。この夏から、急に……急に……草花や鳥けだものなどばかりお話をなすつて……。

少女　芒さんつて随分滑稽な方ね。

老婆　お父さまやお母さまの御心配は、どんなだと思ひになります……。

少女　それからどうしたのよ、風は行つちまつたの……。

老婆 (泣きながら) お嬢さま、お願ひで御座います。どうか

一と言お返事をなすつて下さいまし。

少女 (笑ひながら) あら、いやだ。

老婆 (驚いて) へ？

少女 そんなこと訊くならいや……。 (ぷんと起ち止り) 芒さ

んはそんなこといふから、あたし、きらひよ。ねえ、桔梗さん。

あなた、あたしの部屋へいらつしやらない。え、ぢや、女郎花

さんと一緒でもいいわ。(少女、桔梗と女郎花とを連れて退場)

老婆 (このあとを追ひながら) あああ、ながいきはしたくな

い。

芒 (しばらく考へた後) あの婆さんは、なにをいつてたんだ

らう……。しかし、あの娘が病気だつていふのは、どうしたんだらう。なにかわけがありさうだね……。

蛇　　（突然草叢の蔭から逼ひ出し）おい、黙つてろい！

—幕—

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集2」岩波書店

1990（平成2）年2月8日発行

底本の親本：「新選岸田國士集」改造社

1930（昭和5）年2月8日発行

初出：「大阪朝日新聞」

1927（昭和2）年1月3日

※複数行にかかる中括弧には、けい線素片をあてました。

入力：tatsuki

校正：Juki

2009年7月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

秋の対話

岸田國士

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>